

明治元年十一月廿七日より明治元年十二月二日まで

P8310804right

廿七日子 晴

亀井より焼鮎五枚を贈らる、旅亭小児急病没故す、往(ゆき)て□す、山本屋敷へ太郎を伴い行
大助障子破紙を糊するを助く

廿八日丑 晴夕前陰

旅亭へ一昨の謝(小菊*2十帖)亀井へ昨謝(白□魚一把)を遣す、旅亭主人より水車貸株紹介有し同
人案内にて

太郎大助一同一見に行く、太郎は家族人数書年附、仮調所へ持来取扱杉原内蔵
受取大助も同道す、前兩人一同にて山本屋敷へ廻る、猶昨の如し

廿九日寅 雨午前止猶陰

山本引移に付、太郎大助等一同に行き鮭一隻を贈り遣す

P8310804left)

晦日卯 晴

太郎を携大助同道、□寺匠町へ行き一杯を享せる、小品を投ず

十二月

朔日辰 陰午前晴

旅亭主人紹介の水車方へ大助掛合に行く、右組合の儀、小笠原勢方へ談に行、但霜糖□

組合入の儀頼み敷(*1)、星野□後竹内へ同居、尋し処、今頼帰東出立の由、太郎案内富沢家内と

鶏匠町へ行く、江連へ行き山梨より頼□し酒造貸株の儀談合し□く、鶉飼来る箱館新聞あり

二日巳 雨意午下漸晴

*1:敷(か)、意味は「:であるか、疑問をあらわす」

*2:小菊 和紙、懐紙として利用される?

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。